

VOLLMOND

最 後 通 告

子 ども た ち が 、 消 え た



『山の焚火』のフレディ・M・ムラー監督最新作

1998年モントリオール映画祭グランプリ受賞

1998年/スイス映画/カラー/2時間4分

提供=株デジタル・メディア・ラボ+ユーロスぺース 配給=ユーロスぺース

フレディ・M・ムーラー 監督作品

最後通告

VOLLMOND



1998年モントリオール映画祭グランプリ受賞

監督・脚本=フレディ・M・ムーラー

出演=ハンスペーター・ミュラー / リロ・パウアー 他

1998年 / スイス映画 / カラー / ウィスタサイズ(1:1.85)

提供=株式会社デジタル・メディア・ラボ+ユーロスペース

配給=ユーロスペース

満月の夜。

子供たちが消える

● 瀟洒な湖畔の家の1階にある仕事場でイレネ・エッシャー(リロ・パウアー)は、熱心にパソコンに向かっている。6歳の娘エミ(マリーベレ・クーン)が足音をしのぼせながら部屋へ入ってきて「トニーはどこ?」と尋ねるが、しつこく質問を続ける娘を無理やり追い払ってしまうほど彼女は仕事に夢中だ。しばらくして、息子が学校から帰るべき時間を過ぎても戻っていないことに気づいた彼女は、トニーがその日、学校にまったく姿を現さなかったことを知る。誘拐か? 性犯罪か? 事故か? 家出か? しかし、この奇妙な事件は警察の懸命の捜査にもかかわらず、さらに奇怪で説明不可能な事態へと発展していく。

タイムリットは満月から

満月の間の29日間

● その後、ジャーナリズムが誘拐事件としてセンセーションに報道合戦を繰り広げる中、警察の威信をかけて警部ヴァッサー(ハンスペーター・ミュラー)が配属される。彼はすぐにコンピューターの行方不明者のデータからある整合性を発見する。トニーが下校途中に消えた同じ金曜日の朝にスイス各地で10歳になる6人の少年と6人の少女が何の前触れもなく姿を消していたのだ。事件の核心をつかんだと直感した彼は、翌日から失踪した子供たちの家族を尋ね歩く。しかし、彼がそこに見たものは全かけ離れた家族構成、生活環境の異なる家族の姿だった。彼らがすべて湖のそばに住んでいるということを除けば、共通の要素は何も見つからなかった。捜査の進展もないまま、ある日失踪した子供た

ちからそれぞれの家族に手紙が届く。「ぼくたちは地球の幸せを望む。大人たちがそれを望まなければ地球はほくろなしに回りつづけるでしょう。期限は次の満月まで」...

現実とファンタジーが交錯し合う映画

● 『最後通告』製作中の仮題は「真実の二側面:ひとつの出来事のふたつの映画」だった。当初のアイデアは子供たちの失踪という出来事をめぐって、現実の原則だけで動いている大人の世界と、理想を信じてユートピアを夢想する子供の世界が交錯し合う2本の映画を作り、それを映画館で同時公開するというもの。2本の映画はどちらを先に見てもよく、2本を見ることで観客それぞれの頭の中に両者が合成された想像上の“第3の映画”が出来上がるという予定だった。

● この2本の映画を作るという奇抜な着想の

きっかけは、10年以上前に監督が自分の娘ソフィアと交わした会話だった。まだ子供だった彼女はチェルノブイリ原発事故という奇怪な単語に突き動かされるように、父親に早く危険な大人たちについての映画を作るように迫った。彼女の意見は過激で容赦のないものだった。「でも…」と答える大人の返事に対して「だったら同じ問題についてふたつの映画を撮ればいい。ひとつは子供の私の目から、もうひとつは大人のお父さんの目から」と彼女が提案したのだという。しかし、2本の映画を同時に作るという実際上の困難から、最終的にはいま見るような形で1本の映画にまとめられ、その結果『最後通告』は現実とファンタジーが交差し侵食し合うというほとんど前例のない構成となった。

『山の焚火』から15年

● ドキュメンタリーと劇映画の境界を無化しつづける異色の監督フレディ・M・ムーラーはスイス・ドイツ語圏を代表する映画監督であり、その見事な映像と音楽の交響が静かな感銘を与えた『山の焚火』(1985)で日本でも多くの映画ファンに知られる存在。今回の久々の長篇劇映画『最後通告』は1998年モントリオール映画祭で堂々グランプリを受賞した極めて寓話的で詩的な作品である。前作『山の焚火』ではスイス山岳地方の美しく静かな自然を背景に、耳の聞こえない少年と姉との近親相姦、両親の死というショッキングな出来事を淡々と描ききったムーラー監督。今回の『最後通告』ではやはりスイスを舞台に、一見平穏だがそこに複雑な矛盾と不安を抱え込んだ現代文明社会の目に見えない諸問題を“レントゲン写真のように”透視し炙り出そうとする。



7月29日(土)より独占ロードショー!

特別鑑賞券1400円絶賛発売中!

当日一般1700円
学生 1400円
シニア 1000円

劇場窓口、各プレイガイド、チケットぴあにてお求めください。

上映時間

連日	11:00	1:30	4:00	6:30
----	-------	------	------	------

ユーロスペース tel.03(3461)0211

渋谷駅南口下車2分 JTB前さくら通り上がる